1 日 時 平成25年4月10日 水曜日
開会 10時10分 閉会 10時25分

2 場 所 京都市役所内 教育委員室

3 出席委員 委員長 藤原 勝紀
委員 梶村 健二
委員 奥野 史子
委員 秋道 智彌
委員 鈴木 晶子
委員・教育長 生田 義久

4 傍聴者 0人

5 議事の概要

(1) 開会

10時10分、委員長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第1286回京都市教育委員会会議の会議録について、全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案1件

イ 非公開の承認

議案1件については、市議会議案に関する案件であるため、京都市教育委員会会議規則に基づき、非公開とすることについて、全委員の承認が得られた。

ウ 非公開の宣言

委員長から、以下の事項について、会議を非公開とすることを宣言。

エ 議案事項

議第1号 京都市社会教育振興基金条例の一部を改正する条例の制定について

(事務局説明)

○的山 総務課長

社会教育振興基金については、社会教育総合センター(現在の生涯学習総合センター)及び中央図書館の建設を契機に、昭和55年に創設している。

京都における著名な個人・企業からの寄附金を原資に、現在約2億4300万円を積み立て、毎年度その運用益を、生涯学習振興財団への補助金や生涯学習総合センターでの古典の祭典など生涯学習事業の財源として活用している。

今回、篤志者から8000万円を学校教育で活用してほしいとの希望があった。

また、国及び地方自治体は予算単年度主義であり、その年度の収入はその年度に使い切る必要がある。しかし、学校教育の充実に寄与する事業を有効かつ計画的に行う必要があることから、25年度中に8000万円すべてを執行することはせず、年次計画的に事業を行うこととし、次年度以降での活用が可能な基金への積立てを考えており、現在教育委員会でも所有している社会教育振興基金の対象を、学校教育を含んだ教育全般に拡大し、その安全かつ効果的な活用を図るための規定整備を行うものである。

なお、今回の改正により、突然の寄附の申し出があった場合においても、その年度中に使い切ることなく、次年度以降の活用が可能となる。

(委員からの主な意見)

- もともとある社会教育事業のための基金は、その運用益でもって運営している。今回新たに学校に対していただく寄附金と、従前からの社会教育事業のための寄附金は分けて管理するのか。
- 現在、社会教育振興基金はどのように運用しているか。
- 従来から、このような特定の学校への寄附はあるのか。今までは学校が寄附金をもらった場合はその年度に使い切っていたのか。
- 今回の条例改正は、教育のための寄附金を積み立てる基金の窓口・入口を拡張する意味合いがある。寄附金の出口となる運用方法や使途は、その寄附金の目的に応じて基金の中できっちりと個別に管理するという事で理解したい。

(事務局)

- 新たに学校教育に対していただく寄附金と従前からの社会教育事業のための寄附金は、同じ基金に入ることとなるが、それぞれ中で分けて管理をしていく。「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）」において、基金の整理が必要とされており、学校教育のための新しい基金は作成できないため、今回の条例改正により既存の基金について、社会教育に加えて学校教育を含んだ教育全般に寄与する事業の実施に必要な財源にも充てることのできるようにするものである。
- 現在の社会教育振興基金の運用益（市債購入による）は約500万円である。毎年、基金の元本自体は取り崩さずに、この運用益のみを生涯学習事業に活用している。今回の学校教育に対する寄附金8000万円については、取り崩しを予定しているため、銀行預金で対応をする。
- 京都市立小学校には、もともと番組小学校として地元の方々の寄附により出来上がった学校がある。その意識もあり、従来から地元の方々等による特定の学校に対する寄附は存在している。ただし、今までは今回のような大口の金銭寄附は無く、多くても200万円程度の金銭寄附であり、寄附者の意向をお伺いしながらその年度内に使い切っているのが実情である。

(議決)

委員長が、議第1号「京都市社会教育振興基金条例の一部を改正する条例の制定について」に対して、採決を行い、各委員「異議なし」を確認。

(4) 閉会

10時25分、委員長が閉会を宣告。

署名 委員長